

# 高知県海洋深層水研究所の今後のあり方について（概要）

## 1 これまでの検討経過

令和8年3月3日 工業振興課

(1) 設立から30年以上が経過したことを等を踏まえ、研究所の「取水・分水機能」及び「研究・事業者支援機能」の今後のあり方を検討するため、外部有識者による「高知県海洋深層水研究所のあり方検討会」を設置(R5、6に計4回開催)

### (2) 検討会での意見（論点）の概要

#### ① 取水・分水機能のあり方について

- a 現行設備のメンテナンスによる取水・分水機能の維持
- b B C P 対策を考慮した持続可能な取水・分水機能
- c 将来的な需要増に対応できる体制づくり

#### ② 研究・事業者支援機能のあり方について

- d 社会的価値の高いテーマに重点化し、企業が投資・参画したくなる研究の推進
- e 大学や学生との教育的な接点の充実による海洋深層水の研究の情報発信

#### ③ 第4回検討会

左記の論点も踏まえて、R7年度に海洋深層水研究所のあり方（将来的な建替えも含む）についての基本構想を策定することを報告

#### ④ 検討会後の対応方針

県予算の編成過程で、県有施設のマネジメント方針(集約化・複合化の検討)が決定。研究所の将来的な建替えも含めた基本構想策定は、他施設との集約化・複合化の検討が前提となったことから、庁内でその可能性を含めた今後の方向性を検討することとした。

## 2 庁内での検討状況

※アルファベットは、上記論点に対応

### (1) 取水・分水機能のあり方について

- a 海洋深層水研究所（研究棟）の法定耐用年数は50年（残り約18年強）。定期点検の結果、建物の地盤や構造自体には緊急な対応が不要であると判明したことから、今後は計画的な維持管理を進める。
- b 災害等によって取水ができなくなった場合に備え、他県と連携し、海洋深層水の供給が可能な体制を構築（各県基本情報一覧の作成・共有）
- c 室戸市のアクアフームの給水業務においては、日々の供給量に余裕があり、今後の需要増に備えることが可能。アクアフームが安定した供水を続けられるよう、連携を強化していく必要

### (2) 研究・事業者支援機能のあり方について

- d サツキマスやスジアオノリの陸上養殖、高付加価値化に関する研究を推進中。これらの取組は企業との連携による社会的な需要に対応したものの。また、本年度開始したレアメタル回収等プロジェクトは、新たな産業創出の可能性を秘めている
- e 機能性の検証や多面的な利活用の促進に向けた研究に繋げることを目的に、大学や民間企業等を対象とした海洋深層水の分水や研究所への視察受入れを実施。また、情報発信としては、海洋深層水に関する学会や各種イベントなどにおいて、その価値をPRする活動を展開。これらの取組を充実していく必要

## 3 今後の対応

### 【結論】(1) 取水・分水機能のあり方について

○上記2「庁内での検討状況」(1)のとおり、現在の取水・分水機能を適切に維持管理していく。

### 【結論】(2) 研究・事業者支援機能のあり方について

- 研究所が有する知見や特性を生かし、社会的価値の高いテーマの研究を推進し、また新たなテーマの検討を進めていく。  
検討を進めるにあたり、必要に応じて外部有識者などの意見を聴取することとする。
- 海洋深層水に関する研究などの情報発信を引き続き実施する。

○「高知県海洋深層水研究所のあり方検討会」は終了し、上記のとおり「社会的価値の高い研究テーマ」や「新たな研究テーマ」の検討を進めるにあたり、必要に応じて外部有識者などの意見を聴取することとする。